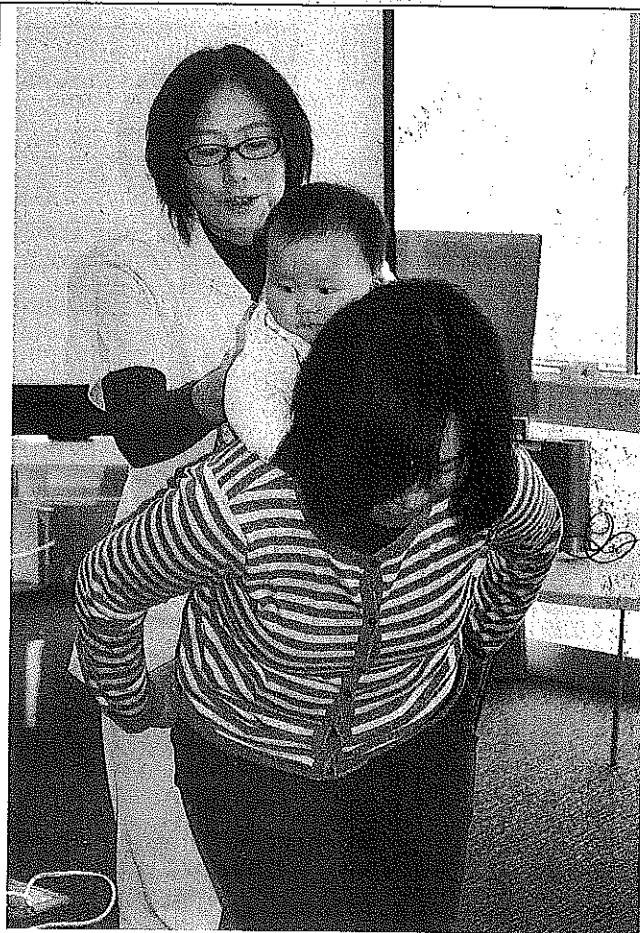


おんぶで安全に移動

子育て ネット 災害の視点から研修会

昔ながらの「おんぶ」が、災害時に子どもを連れて安全に移動する方法として見直されている。防災の視点から、楽で安全なおんぶや抱っこについて学ぶ研修会が12日、盛岡市のいわて県民情報交流センター（アイーナ）で開かれた。国連防災世界会議の関連行事として認定NPO法人いわて子育てネット（村井軍一理事長）が主催。抱っこひもなど育児用品の製造販売を手掛ける北極しろくま堂（静岡市）の園田正世代表が、おんぶ育児の利点や災害時の対応を講義した。



園田代表に、楽で安全なおんぶの仕方を教わる母親

子育て中の母親や子育て支援員ら21人が参加。おんぶの習慣が災害時にも役立つことを学んだ。

園田代表によると、おんぶは、おぶった人の両手を使って安全に素早く避難することが

可能。赤ちゃんが背中
で安定し、肌と肌が密
着することで、精神的
な安心感にもつなが
る。おぶわれて育てら
れた子は、母親やきよ
うだいの様子も、よく
見聞きできるため、社
会性を身に付けるのが
早いという。
さらしやストール、
Tシャツなど身近な布
を、おんぶひもに活用
する方法を解説。赤ち
やんをできるだけ高い
位置でキープすること
や、赤ちゃんの股をカ
エルのように開いてし
っかり密着させること
など上手なおんぶや抱
っこのコツを伝授し
た。

息子の洗人ちゃん
（9カ月）を抱いて参
加した同市の小野寺ゆ
みさん（35）は「万が
一の災害でパニックに
ならないよう体験でき
て良かった。普段して
いる抱っこより位置が
高く、表情もよく見え
る」と話した。
園田さんは「さらし
1枚でも、使いこなせ
ると、非常時に、とて

も役立つ。災害時だけ
おくことが大切。昔な
がらの知恵を生かし
思っても難しい。普段
でこ呼び掛けていた。
の子育ての中で慣れて